

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 収納の装置

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立民族学博物館, National Museum of Ethnology 公開日: 2009-04-28 キーワード: 作成者: 横川, 公子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00001439">https://doi.org/10.15021/00001439</a>

## 収納の装置

横川 公子

### 1 収納に関連するもの

収納に関連するものは、箆笥類、行李類、下駄箱、食器棚といった家具の他、箱類、袋類、籠類などのこまごました装置がある。調査によって確認できた収納に関するものは、置かれた場所に分けて表「部屋別の収納用具」に一覧している。

### 2 タンス類

#### ① 箆笥

箆笥は、全部で9棹ある。その内容は、単なる箆笥（整理箆笥）のほか、和箆笥、はぎれ箆笥、帳箆笥、茶箆笥が含まれており、各室に配置されている。大村しげの寝室であり、同時に仏壇が置かれた仏間でもあったオクノマには、そのうち7棹が配置されており、オクノマが、寝室と仏間と収納スペースの兼用として多目的に使われていたことが分かる。7棹の内容は、和箆笥2棹と箆笥2棹、はぎれ箆笥と茶箆笥が各1棹ずつ、他に仏壇の台として使われた箆笥1棹が含まれる。オモテの帳箆笥は、父親の仕出屋時代から使われていたものだが、「手作りの店 峯」を開いてから店頭で置かれ、店頭で必要と思われるこまごまとしたものが入れられていた。

なお、以上の箆笥の他、2階に大型の「長持ち」が1棹あり、父親のものがまとめて入れられていた。

#### ② 小引出し・引出し

引出しが付いた小型の収納用具は、各室に配置されている。但しオクノマにはこの種の引出しはない。オクノマには引出し1件と小引出しが1件ある。

2階にも小引出し1件と引出しが2件あり、大村しげの取材したパンフレットや旅行資料、スクラップや著述の新聞記事の切り抜き、名刺などが入り、執筆に関連したものがとりまとめられている。引出しには写真、鉛筆のような執筆関連のもののほか、ハンカチや腕輪、扇子、財布、テーブルセンター、小物入れといったやや雑多な小物類が一緒に入れられている。2階は、大村しげが脳梗塞になって、1階オクノマを病室にした際、不要不急のものを取りあえず運び上げたというから、これらはそういったものの一部と思われる。



### 3 行李類

柳行李が4件ある。そのうち2件は、ナカノマの押入にあり、衣類や端切れが収納されている。他の2件は、レコード類と書籍が入っていて、2階にあったと思われる。

### 4 下駄箱，食器棚，長火鉢

下駄箱は2件ある。大村しげの外出用の和装履物や傘類が収納されたものと、普段用の和装履物や男物、靴などが収納されたものに使い分けられている。

食器用の収納用具は、ナカノマの水屋とハシリモトに作りつけられた水屋がある。ナカノマの方は、スプーン・ナイフ・フォークや箸・箸置き、神器のかわらけ、猪口などの酒器が入れられており、ハシリモトの方は大村しげの執筆やマスコミによる取材の際に用いられた食器や調理器具が入れられていた。

ナカノマにおかれた長火鉢は、大村しげの母親時代からのものである。手拭い、栓抜き、マッチ、コースター、角皿、把手、包帯、懐炉、輪ゴム、指サック、カーテン用フック、ソケット等々、かなり雑多な細々したものが入れられている。

### 5 その他の収納に使われたもの

以上のような家具の他に、ものを収納しておくために多くの装置が使われている。細々した収納の仕掛、装置を検索するために、次のような語彙を手掛かりとして目録を検索した。ここでは必ずしも専用の収納用具とはいえないまでも、実際に、収納の仕掛に転用して使用されたものが少なくないため、ものを仕分けたり保持する役割を果たした様々なものを収納の仕掛や装置として取りあげた。「箱」、「袋」、「かご（籠）」、「瓶」、「容器、器」のようなものの名称を手掛かりにした場合と、「包む、包み」、「挟む」、「保管」、「保存」、「立てる」、「立て」、「入れる」、「入れ」という用途を手掛かりとした場合からも検索した<sup>1)</sup>。

#### ① 箱類

箱類は、もっとも多くを占める収納の装置で、すべての部屋に認められる。資料名に「箱」の付くものは、合計259件あり、以下のようなものが含まれる。紙箱、ダンボール箱がもっとも多く、これは100件以上を占める。しかし、箱類には空き箱が35件以上含まれる。数珠や帯締め空き箱のように大切な品を入れておくために、実際には使われなかったが捨てられなかったものの他、利用を見越して気に入った空き箱が残されている。この件については、「ほかすのはもったいない」と、元の所有

者大村しげが随筆に書き残していること（大村 1993: 167）が参考になる。コレクションの場合、箱好きの大村しげが色和紙や千代紙を張っておいたものが多いことも確かめられた。紙箱には、食器、食品、装身具、写真、学校時代や出版関連の記録類、旅の土産もの、人形、髷（かもじ）など、何でも収納された。

さらに餅箱などの木箱 17 件、ブリキや金属製の箱、漆器の重箱 6 件も含まれる。重箱については、食器とする方が妥当とも考えられるが、単なる食器よりは、容器としての汎用性があるものとして、ここに含ませた。名称に用途を冠して整理されたものも多い。衣装箱、救急箱、団扇の箱、菓子箱、下駄箱、裁縫箱、しおり箱（2 件：箱の表にしおり箱と書かれる）、硯箱、貯金箱、手提げ箱、道具箱、箸箱、筆箱、文箱、文房具箱、乱れ箱、ロウソク箱、炭箱等々。すべて、収納のための装置である。これらは元々の用途や名称が箱の蓋に明記される等、何らかの名称があらかじめ付けられているものの他、「団扇の箱」のように、団扇が収納され、箱の形も中身に合わせた大きさや形態になっている等、実際に中身が入っていたことで確かめられるものが含まれる。また乱れ箱のように、用途が一般的に通用していることに基づいて名付けられたものも含まれる。これらは大抵収納されるものが固定しており、収納の装置というよりも中身と一体となった生活用具としての存在感がある。本稿では詳細に立ち入らないが、ここには、中身と箱との関係性など、いろいろなものを箱に入れて保持する生活スタイルが示唆されているといえよう。父親の仕出し業に関連した「魚金」という屋号の付いた魚箱、仕出し箱（10 件）もある。現金売り上げ用の「銀貨箱」（蓋に名称が書かれている）も仕出屋「魚金」のものであろう。箱の蓋 4 件があり、これは独自の用途に使用されたものだろう。

箱膳（2 件）、箱枕（3 件）も検索によって浮上する。箱膳については晩年の大村しげが、一人用の食器を常備して使うのに便利だとして使っていたものが、コレクションにそのまま残されている。これらは、前者は専用の食器入れであり、箱枕は寝具が主要な用途であるが、引き出しが付いており、確かに収納用具として工夫されたものである。

## ② 袋類

袋は、90 件が確かめられた。「物を入れる」という用途、使用法に分類されているのは紙袋で、本屋や出版社の袋、菓子屋の袋などが転用されている。名称に用途を冠して整理されたものが多く、その一部を取り上げると、布団袋、月謝袋、のし袋、ポチ袋、水切り袋（台所用）、匂い袋、箸袋（多数）、巾着袋、念珠袋、薬袋、袋物（多数）、掃除機集塵袋、手提げ袋、祝儀袋、糠袋など。いろいろなものを袋に入れておくことがわかる。

### ③ 籠類

籠類は38件確かめられた。このうち「物を入れる」という用途、使用法に分類されているのは、25件である。名称に用途を冠したものもあり、蒸し籠、脱衣籠、水切り籠、盛り籠、果物籠等は、それぞれの用途に対応した用具である。

### ④ その他

名称に「入れ、入れ物」のつく収納用具は、132件にのぼり、身の回り品が多い。これらは、「箱」や「袋」などの形態分類による検索からは漏れたものであるが、収納用具としては無視できないため、その他としてまとめることにした。

小物入れ(22件)はその典型である。その他、細々したものが、名称に「入れ」のつく収納用具として整理されている。印鑑入れ、朱肉入れ、札入れ、懐紙入れ、櫛入れ、小銭入れ、数珠入れ、小道具入れ、煙草入れ、名刺入れなど。これらは名称が通用しているものも多く、携帯用裁縫道具入れともども、まさしく携帯用の収納用具が多い。食事に関連した入れ物も多い。食器入れ、楊子入れ、爪楊枝入れ、調味料入れ、薬味入れ、シロップ入れ、ミルク入れ、ソース入れ、箸入れ、薬入れなど。洗面用具入れや石鹸入れなども検索できる。以上は、大抵単一機能の入れ物であり、用途の明瞭な箱類と同様に、さまざまなものを専用の入れ物に入れる習慣があることを示している。

さらに以上のような用途分類からの検索を試みると、「物を入れる」という用途では、347件がヒットし、この場合、衣装箱、空き箱、折針入れ、懐紙入れ、籠、紙袋、缶などが含まれる。籠や袋、缶は、箱と並ぶ主な収納用装置になっている。

用途が「保存」のものは、127件検索できるが、その殆どは食品保存用の装置や用具であり、ガラス瓶、甕、桶、樽、空き缶のほか、ビニール袋やプラスチック製の蓋付き容器(タッパーのような)が含まれる。

次に「立て(立てる)」ことによる収納の装置をあげてみよう。19件が検索できた。団扇立て、カード立て、傘立て、皿立て、色紙立て、写真立て、扇子立て、筆立て、眼鏡立て、ロウソク立てなど。傘や筆は収納の仕方として立てることがあるが、眼鏡、ロウソクを立てる道具などは、収納というよりも相応の実用的機能を持った専用の用具となる。また色紙や扇子を立てるのは、飾るための装置である。

## 6 収納の装置に関わる覚え書き

用途分類から取り上げた収納の装置や用具の総数は、重複しない「(物)入れ」、「立て」、「保存」による検索データ数を加算すると493件である。さらに「保管」や「挟む」等の用途分類に検索を拡大することで、収納のための装置や用具がかなりの数に

のぼることが予想される。またそれらの装置や用具は、単にものを仕分けて相応の場所に整理するのみならず、飾り付けや食品の保存、ものの携帯などの機能にも対応している。今回の調査では、大まかな写真撮影をした以外に抛り所がないのであるが、たとえば茶箆筒や食器棚に収納された食器類がガラス戸越しに見えるようになっており、このことは、意図的であってもそうでなくても、収納という行為が保存や飾り付け・室内景観の効果をも果たしているわけで、単なる収納という機能に留まらないことを想起させる。また家具類の配置に関して、同様なことが考慮されることは周知のことである。収納と保存や携帯、飾り付け・室内景観との重なり方については、検討すべき課題として提起しておきたい。

さらに収納によるモノの仕分けや整理は、流通における商品分類とは異なるモノの分類の考え方や暮らし方を反映しているものと思われる<sup>2)</sup>。

コレクションに含まれる箱類は、紙箱、ダンボール箱で代表される。衣装箱も紙製である。しかもこれらは、殆どすべてが転用のものである。こうしたやり方は、最近のプラスチック製の物入れや衣装箱が、単一機能的であることと較べて汎用性があり、流動的な対応が可能である。またリサイクルにも適っていて、実際にリユース（転用）されているものも少なくない。このことは、大村しげの生きた時代の収納の仕方を代表していると思われると同時に、大村しげの「しまつ」の思想を抛り所とする暮らしのスタイルと知恵が窺えるのではなかろうか。

なお、表「部屋別の収納用具」は、調査で確認できた各部屋別の主たる収納用具を一覧している。

## 注

- 1) 家具のような収納のための用具は、すでに取りあげているのでここでは取りあげない。また収納の「収」や保管の「保」を含む語彙など、調査時に用途分類に関係する語彙として使用した可能性のある文字については、予め検索を試みた。その結果ヒットしなかったものは勿論、不適切にヒットしたものは、当然のことながら削除し取りあげていない。なおこうした検索用語のぶれは、調査に先だつて分類の条件を揃えておけば生じないことだろう。しかし本調査は、最初に述べたようにフィールド調査に当たるものであり、ものの出現に対応して、用途や機能の分類を流動的に実行していかざるをえないという状況にあった。しかも複数の調査者間で調整をし尽くせなかったところもあって、あらかじめ充分な分類条件を設定することが出来ず、検索の際にあらためて用語の試行錯誤が必要となったのである。
- 2) 暮らしにおけるモノの分類の仕方については、大村しげコレクションのものの置き場所に関する聞き書きを抛り所として、拙稿「収納場所と収納用具——事例「大村しげコレクション」から——」（『生活デザイン研究』3、生活美学研究所、2005年、pp. 60-70）で検討しているので参照されたい。

## 文 献

大村しげ

1993 『しまつとぜいたくの間 ゆたかな暮らしのエコロジー』東京：佼成出版。